

平成28年度鹿児島市商工業振興プラン推進会議 会議概要

- 日 時： 平成28年10月18日（火） 10：00－11：25
- 場 所： 鹿児島市役所みなと大通り別館6階ソーホー会議室A
- 参 加 者： 委員12名（代理出席1名、山下委員（市産業局長）を含む）
- 会 次 第： 1 開 会
- 2 産業局長あいさつ
- 3 会長及び副会長選出
- 4 協 議
- (1) 鹿児島市商工業振興プランの進捗状況について
- (2) 商工業振興プラン成果指標の見直しについて
- 5 意見交換
- 6 閉 会

主な意見等： 以下のとおり

<鹿児島市商工業振興プランの進捗状況について>

（委員） 資料1と資料4の関係は、どう理解すればよいか。

（事務局） 資料1は、今回初めての試みとして、各基本方針に含まれる事業をそれぞれ評価していただき、どれくらい効果があったかという見方で整理したもの。

資料4は、方向性ごとに、経済状況等により変動する要素を「製造品出荷額等」などの客観的な指標として掲げ、年次で見えていくもの。

（委員） 資料1の上期の評価の状況は、誰が評価したものか。

（事務局） 市の各課及び関係団体に自己評価してもらった。

（委員） 評価指標について、事業評価（資料1）は実績ベースのアウトプットの話で、成果指標（資料4）はどうか経済が変わったかのアウトカムの話。工業統計や商業統計は総合指標になるので、プラン全体を評価するものだと思うが、振興の方向性ごとに細かく見る場合は、マクロとミクロの話が混在しており、見せ方に工夫がいると感じた。

（事務局） これまで設定している指標はこの形で続けていき、新たな客観的な指標の設定について工夫してまいりたい。

（委員） 資料4の成果指標の数値だけを見て評価するのは難しい。

資料1の4つの方向性の中で、「かごしまの将来を牽引する新たな産業の創出」が期待される割に事業が少ない。このままいくのか。

(事務局) 指標は、22年度に10年後の工業等がある程度経済が上向きになる予測のもとに作成したが、実際にはリーマンショックなどがあり、今に至っている。

人口も減少傾向にあり、それに伴い経済も頑張れば何とかなるという時代ではないという非常に厳しい傾向にあることも背景にしながら、もし見直すものがあれば見直して行きたい。

また、資料1での「2将来を牽引する新たな産業の創出」は18事業と少なく見えるが、事業の重複を避けたため、他の事業と性質が重なりオーバーラップしている部分がある。

ただ、確かに全体的に「創出で」とか「新たな」といった事業がまだまだであるため、今後、若者を中心に雇用の場を広げ、若者が取り組んでいきたいという意欲の沸くような雇用の場を作るという意味でも、こういう新たなものに対しては皆様方と今後努力をしていかなければならないと考えている。

(委員) 新たな産業の種が小さいながらも確実に変わりつつあることを肌で感じている。その中で、こういう指標とは別に、新たな動き・質的な変化を何か可視化する方法を、こういう場で皆さんと協議し、工夫していければと思う。

(事務局) 定量的な評価は、取り組んでいる皆様の生のご意見を伺いながら一緒に考えていければと思っている。

(委員) 民間では成果数値等の前に必ずサマリ(要点文)がある。

(事務局が) どう捉えているかを示してもらった方が、会の方向性が定まると思う。

(事務局) 全体的に大掴みでどう捉えるかを、事務局でもう少し詰めた上で皆さんからお話をいただくと、議論をより深められるので、今後、検討してまいりたい。

(委員) マクロで鹿児島県の商工業の状況がどうなったか、また、各企業の業態・業種のミクロな経営の中でどう感じているのか、各事業の結果、今どういう傾向にあるといったアンケート調査などの細かい定性的なものも必要だと思う。

そのアンケート的なものを分析の基礎にして総括し、この5年経った中でこの商工業振興プランをどう評価するのかを、文章表現で、数値に出ない部分を一回まとめて提示する必要があると思う。

中心市街地の活性化基本計画なども、計画期間がどう動いたかを自己評価している。

最近、PDCAが全ての行政評価の中で総括評価を問われているため、若干先行して計画が作られた商工業振興プランのあり方にも、施策の実施者と商工業者の声を反映した形での整理を、後期に入る今、市の関係課において検討して欲しい。

<商工業振興プラン成果指標の見直しについて>

- ・事務局から提示した案(資料4参照)が承認された。